

第4回 北九州市発達障害者支援地域協議会「調査・骨格検討部会」議事録

- 1 会議名 第4回 北九州市発達障害者支援地域協議会「調査・骨格検討部会」
- 2 開催日時 令和3年12月13日(月) 19:00～20:20
- 3 開催場所 WEB会議 (Microsoft Teams を使用)
- 4 出席者
 - (1) 委員 (敬称略)
倉光晃子 (部会長)、今本繁、天本祐輔、友納優子、尾首雅亮、小西友康、金光律子、竹下美穂子、神崎淳子 計9名 (1名欠席)
 - (2) 事務局
精神保健福祉課長 安藤卓雄
- 5 会議次第
 - (1) 議題
実態調査の結果について (中間報告)
- 6 会議経過 (意見交換)
事務局から協議資料について説明を行い、各委員から質問、意見を伺った。

【部会長】

今ご報告いただいた調査結果の状況について、より詳しくここを知りたいとか、結果の内容についての質問等を受け付ける時間にしたい。そこで詳細を確認していただいた後、各委員の皆様からご意見等をいただきたいと思う。

先程、ご家族の調査結果報告の診断内容で、自閉症の方が一番多く、次いでADHD、LDという報告だった。医療機関に関連するところだと思うが、ご質問等いかがか。

【委員】

ASDが多いということだが、多分ASDの方のほうがより困りがあって、受診される方が多く、そのようなバイアスがかかっているのではと思った。私たちが診断する際は、ほとんどADHDだけではなく、たいてい両方の特性をお持ちであり、それでASDの方が多くなっていると思う。

療育センターはどちらかというとASDの診断の方が多く、地域などによっても変わるかもしれないので、そういうバイアスもあるのだろうと思う。

【部会長】

発達障害の方も複数の特徴があり、複数の診断を受ける傾向もあるかと思う。また、地域性や診断される医師の専門性等にも反映されるところがあるのではといったご意見をいただいた。

他にご質問等いかがか。

【委員】

質問ではないが、全体的なデータを見て思ったのは、手立てを皆さんきちんと利用してはいるという点。そして、アンケートの際に聞けばよかったが、その手立ての満足感というか、手立てできちんと助かっているかというのも大事だと思う。事業所、本人、家族が、それで助かっていて、今はこれでよいと思っているのか、さらにより手立てを求めているのか。また、今ある手立てを組み合わせるともっとよいものが生まれるのかなど、先々につなげていくための基礎データとして有用かなと思う。その先につなげるための検討というのは、今からさらに必要なかなと感じている。

【部会長】

当事者、ご家族、支援者など、実際に使われている方たちへの効果や手応えなどの検証が必要だということでご意見いただいた。重要な視点であり、なぜ使っているのかというところの根拠になるかと思う。

それでは、質問だけではなく結果に関する意見や感想も含めていただきたい。基本の手立てを講じるにあたっての難しさで、福祉サービスの方は70%以上で難しさを感じていた。ご本人、ご家族、支援者で、手立ての導入の難しさをかなり感じているが、この件について、福祉機関としてご意見いかがか。

【委員】

ご家族やご本人は、一人の方とか自分自身のことについて、特性をよく知って手立てを考えていけばよい。しかし事業所はいろんな方がいて、お互いに刺激し合う環境もあったりして、人という要素が絡み合っているため、どういった手立てをどのように活かしていけばよいのかというところに、難しさを感じているのではないかと想像した。

【部会長】

ただ手立てやツールを導入するのではなく、それぞれの方の特性に合わせた形での導入というところに難しさ等があり、やってみたがうまくいかないことがあるのでは、というご意見だった。

このあたりについて、ご家族や当事者としてのご意見はいかがか。

【委員】

私は6人兄弟で、4人が当事者。父は定型発達だが、発達障害の人以上に変わっており、私が思うに、本当に人間は型にはまらない。

相談当事者として、基幹相談支援センターに相談とかしていると、基本的な知識というのは必要だと思うが、それにとらわれすぎずに、一人ひとりに寄り添って、よく話を聞くということの大事さを感じる。

【部会長】

その人の特性に応じて、寄り添いながら、困難性、必要性に応じて導入していくことが大事ということ。

他にご意見いかがか。

【委員】

家族のアンケート結果の通りで、億劫であるとか、効果がわからないというのが、なるほどと感じた。家族は24時間、常に一緒にいるので、休みなしというところもきつくて、相談相手や褒めてくれたり、指導してくれたりする人が近くにいないと本当に難しいというのは感じ

る。先程、委員が言われたように、手応え、満足感がどうだったかというのは、意見を聞いてみたいと思った。

【部会長】

生活の中で手立てを講じるとなると、24時間一緒に生活する中で、どこから導入したらよいかという選定、優先性の難しさがあったり、これで本当にうまくいっているのか指示してもらえると、外部からのサポートも必要だということでご意見いただいた。

他に、心理の立場からご意見いかがか。

【委員】

難しさという点で、委員からあったように、人は型にはまらず、本当にそれぞれというところがもちろんあると思う。また、日々の中でフィードバックがなく、はたして本当にこれでよいか全く見えないという暗中模索の状態というのもあると思う。

これらは、専門機関がどういうふうに提示をしていくかということところにも課題が通じると思う。

ご本人向けの自由記載の中に、「カレンダーなどにメモしたこと自体を忘れてしまう」というコメントがあるが、これは本当に当事者の方からよく聞く。「そうすればよいというのはわかるが、できないから ADHD なんだ」というご意見もあり、いわゆる専門家と当事者との間のミスマッチのようなところは、十分検討が必要だということでご改めて反省をした。

【部会長】

手立てを講じるときに、特性や強み、課題にうまくフィットするよう、バックアップや導入の仕方の助言やサポートが必要になるということでご意見いただいた。

専門的なサポートで関わるという観点から、ご意見いかがか。

【委員】

手立ての一つである PECS の会社を以前やっていて、全国で普及のための活動をしていたが、地元で思いのほか広まっていないことに非常にショックを受けている。会社は他の方にお任せして、自分はまだ少し専門的にいろんな支援を広げていきたいと思い、新しく会社を作った。しかしながら、全国で活動している分、地元が手薄になっているのを感じていて、北九州市で、専門的な支援をもっと広めて事業所等に対しても、より活動しなくてはならないと感じている。

手立ての難しさが事業所で一番高いのも、それを反映しているのではと思う。専門的な機関がしっかりいろんな事業所に、専門的な手法を伝えていく責任、役割というものも持っていく必要があるのでは思っている。

ただツールを使うだけではなく、家族や当事者に型通りのものを渡せばよいわけでもない。きちんと本人に合うようオーダーメイドしないといけないし、いろんなことをきめ細かくやるためには、各事業所が専門性を持って取り組まなければならないと思う。

ただ、事業所自身がそういう専門性を必要としているので、さらに専門性を高めるための機関や専門家が活躍して、しっかり定着を図っていかないといけないし、そのための仕組みをしっかり作っていかないといけないと思った。

本人と家族でいろんな違いがあるが、これはおそらく年齢層が違うことが大きいと思う。本人は年齢が高く、大きくなって困難さを感じて、いろんな機関を受診された人たちなので、手立てに関しても、手帳とか身近に使えるものを挙げている。

家族の方は、小さい頃に医療機関とかに行って、いろんな指導を受けてから様々なものを使っているというのが出ていたと思う。

また、本人も家族も「億劫」という回答が多いことに申し訳ないというか、非常に使いやすいものを開発しなければならないと思う。書いたけど忘れるという意見もあったので、確かに手帳とかアナログな機器とかもよいが、テクノロジーを活用すれば、手立てについてはもう少し改善の余地があると感じた。

「専門的手法がわからない」というのは、本人と家族はわかるが、事業所も多かった。そこは底上げのため、専門的な支援について、これから北九州市で何かやっていけないと非常に感じた。

また、使っていない手法とかもあるが、知らないから使っていないというものもあると思う。ご本人は年齢が高い方が受けているので、これは事業所等で特に就労とか、そういった部分でSSTと回答している方が多いのではないかと思う。

あと、構造化が意外と使われていない。これは発達障害、特に強度行動障害のように重度の方にはとても有効だと思うが、あまり意識されておらず、どちらかというスケジュールを挙げた方が多かったのも、そういった違いが出たのかなと思う。

【部会長】

専門的手法に関するご意見と合わせて、使いやすさだったり、わかりやすく伝えていく必要性のご意見をいただいた。

教育機関について、ご意見いかがか。

【委員】

学校現場の調査をこれから実施するが、今回の完成したアンケート調査票を見て、改めて学校現場がどのくらい、このような取組とか手立てを認識しているかが、今回明らかになるということで、私も注目していきたい。

おそらく特別支援教育の関わる度合いによって、比較的回答がスムーズな先生方もいれば、かなり難易度を高く感じる先生方もいると思う。ただ、学校現場に私から発信するならば、「このアンケートに回答することから基本の手立てが始まる」ということを伝えていけたらと思う。

構造化の話もあったが、おそらく研修の中で、構造化という言葉は使っていなかったとしても、そういった支援の要素がすでに各学校で取り組まれているというものはあると思う。今自分の学校で行っている取組が実は構造化の一つの取組であるということを知っていただくことが、これからこういった支援が必要な子供たちへの、よりきめ細かな支援に繋がっていくのではないかと思う。

会議冒頭で心理発達検査の話も出たと思うが、学校で検査を実施するというのは、なかなか難しい状況があり、今できることがあるとすれば、例えば就学相談等の情報を、学習指導とか日常生活の中で配慮のポイントとして、先生方が意図して支援をしていくこと。なので、入手した情報は効果的に活用するが、積極的に学校現場で調査をかけることについては、なかなか難しいということをご理解いただけたらと思う。

【部会長】

学校の中でも様々な専門的手法や手立てを導入されていて、それがわかりやすい言葉や形になって実は使われていることもあったり、検査がなかなか難しいところでも、その検査結果はきちんと反映されているという実態もあるということで、ご意見をいただいた。

専門的手法の結果で、応用行動分析学的手法が少なく、伝え方とか導入してもらうための工夫というのは必要であることを痛感させられた。日常に馴染みのある形で広まっていることを願いたいところ。強度行動障害の部門にも関わる場所であり、それをわかりやすく、実践しやすく伝えることの必要性を感じた。

傍聴者の方、ご意見いかがか。

【傍聴者】

資料を読んで感じたことを、皆さん述べられていたと感じた。

本人や家族は、自分や家族のことを一生懸命やればよいが、事業所はそれぞれのいろんな違いを知らないといけない。障害のこと、本人のことを分かることがスタートであり、どうしたらよいか、これでよいのか、そういったところで苦労して、空回りしたり、思いとは裏腹になったり、そういったもどかしさで辛い思いをしているのだと感じた。

障害のことも本人のこともよくわかり、こうすればよいということがわかれば、きつとうまくいくのだろうと感じた。

【部会長】

個々に応じた基本の手立ての導入、活用できるような工夫や伝え方の配慮というのが必要だということをご意見としていただけたかと思う。

今後の結果の整理で、考察等深めていければと思う。

それでは事務局にお返りする。

【事務局】

本日は駆け足で大量のデータを一気に説明する格好になってしまい大変掴みづらかったと思う。何を読み解いたらよいのかについては、もう少し丁寧に読み解きをしていきたいと思う。

そのためにもぜひ構成員の皆様にはチャットをご活用いただきたい。もっと言いたかったこととか、この数字はこういうふうに読み解いたらよいのではというような意見を、ぜひチャットにいただきたい。そういった声を集めて、このデータをどのように解釈していくのか、そこに今回の調査の肝があると思う。数字を流しただけでは見落とししてしまう部分がたくさんありそうという気もしている。

本人や家族の負担感というものは、「億劫」という言葉で片付けてはいけないという感じがするし、支援者も含めて皆が手探りで、不安を抱えながら手立てを講じているのだということ、専門部会として共有し、そこに対してどうサポートしていくかをぜひ今後議論したい。

大人の当事者の方から50名、短期間だがウェブ経由で回答いただけたことは非常にうれしく思っているが、大人の当事者の方にマッチする設問だったかどうかというところは、少し検証が必要かなという気もしている。手立ての基本的視点は同じでも、大人の方には大人の方の、社会人の方には社会人の方に合わせた問いかけの仕方とか、設問の組み方とか、そういうものがもう少し必要だったのではと感じている。この辺は次に向けた宿題でもあり、今後の議論の中でまた導き出していきたい。

SSTだけが少し高く出ているという部分は心配もある。トレーニングも大事だが、生きづらさに対する手立ては、大人の当事者の方の身近なところにもあるのか、そこは一人ひとりの話の中から読み解いていく、それも重要な支援の手立てとして、もう少し強調していかないといけないのかなと反省も含めて振り返りをしていたところ。ぜひチャットでご意見、またご質問も含めていただきたい。

また、今回の数字はまだ集計途中であり、最終集計までに数字が変わることもある。実数で積み上げているものについて、パーセントで分析をするとまた違った結果になってくる可能性もあるので、あくまでも今日は中間報告ということでご理解いただければと思う。

次回会議の予定等については、改めてお知らせする。これをもって、第4回会議を終了させていただきます。